

企画セッション

◆ 企業における知財経営の実践のための経営層と知財部門とのコミュニケーション ◆

【概要】

近年、知財・無形資産が企業の競争力の源泉としてより重要な経営資源となっている。また、持続可能な開発目標（SDGs）やデジタルトランスフォーメーション（DX）などの社会的な課題に対応するためにも、企業が知財・無形資産に投資し、活用することは不可欠である。2021年6月にはコーポレートガバナンス・コードが改訂され、上場企業は知財投資についての開示や取締役会による実効的な監督を行うことが求められている。

このように、企業における知財経営の重要性がますます高まっているものの、①経営層が企業や事業の成長戦略との関係で、知的財産の役割や事業への貢献について理解していない、②知財部門が経営層の思い描く企業や事業の将来像（To be）を、現状（As is）との対比において理解できていない、といった、経営層と知財部門とのコミュニケーションに課題があり、知財経営を効果的に推進することができていない企業が多く見受けられる。

本セッションでは、企業の知財担当の経営層によるパネルディスカッションにより、経営層から見た企業経営に対する知財の役割、知財部門への期待、知財部門の人材に求められるマインドセットや経営層と知財部門とのコミュニケーションのあるべき姿などを議論する。

企画セッション

◆ 企業における知財経営の実践のための経営層と知財部門とのコミュニケーション ◆

【パネリスト】

・モデレーター

植田高盛

(特許庁 企画調査課 特許戦略企画調整官)

・スピーカー

阿部剛士

(横河電機株式会社 常務執行役員 マーケティング本部 本部長 CMO
博士 (技術経営))

地曳慶一

(貝印株式会社 取締役 上席執行役員 知財・法務本部長 CIP0 兼 CLO)

堀込岳史

(株式会社アシックス 執行役員 法務・知財統括部長 兼 危機管理副担当
兼 サステナビリティ統括部担当)

【議論テーマ】

- ・モデレーターから、特許庁が今年5月に公表した「企業価値向上に資する知的財産活用事例集」の紹介
- ・スピーカーによる以下のテーマでのディスカッション
 - ✓経営における知財の役割や位置づけ、企業価値向上のための知財の活用
 - ✓経営トップから見た知財部門への期待や、理想と現状のギャップ
 - ✓経営トップの期待に応えるために必要な知財部門のマインドセットや人材育成
 - ✓経営トップに響くコミュニケーションのあり方 (積極的にコミュニケーションを取るためのコツやネタ、考え方等)

以上